

令和二年度総会紙上俳句大会入選一覧

佐怒賀直美先生 選

特選 遊具より脚の飛び出す花の昼

真ん中のふくらみに寝てげんげん田

逃げ水の逃げゆく橋を涉りをり

入選 田の中に駅あり駅に燕来て

少年は石蹴つてゐる雛祭

横顔に日の斑のゆらぎ海苔を掻く

若冲の鶏冠とさかの色の椿咲く

春泥や声響かせて峡の子ら

蛇出でて光の重さもてくねる

尾を天に立てて漁る残る鴨

畦塗の乾く輪中に一揆の史

縄跳のこゑのつづけり夕茜

早蕨の拳ゆるめる水の音

えらいことになりたる地球蠅生まる

磯嘆き終へて離せる命綱

古時計打つ春屋の組紐屋

石井いさお先生 選

特選 島影を放り上げたる大卵波

雉鳴くや火攻めまぢかな登り窯

入選 山峡の天の余白に藤の花

廣 波青

上田佳久子

樋口 一破

橋本 石火

稲垣いつを

金津やよい

村田 豊星

白井 弘美

梅枝あゆみ

三輪 明美

水谷 岩夫

樋口 一破

西田 尚子

上野山明子

小林 青波

山中 悦子

玉置 泰生

西田 誠

松本 愛子

花吹雪視界を零に降り続く

ちぎり絵の和紙の軽さや春の蝶

奥熊野おくまのの木霊起しの春の滝

教科書の真つ新なまま春逝けり

浦中に香り沸き立つ鹿尾菜干

シャボン玉風の姿を浮彫に

大琵琶を啣へてみたる初燕

波合のこだま返しや海女の声

磯嘆き終へて離せる命綱

岩礁の光剥がして鹿尾菜刈

宮田 正和先生 選

特選 一声に海震撼と海女の笛

雉鳴くや火攻めまぢかな登り窯

入選 雲一つ田草取女に影与ふ

空拵げ溪をひろげて囀れり

若冲の鶏冠とさかの色の椿咲く

燕飛ぶ朝の光を切り裂いて

囀りや百あらねども百地蔵

檣咲く母校ありしはこの辺り

つちふるや老の漁師の遠目ぐせ

膝つけば土のぬくもり蓬摘む

囀りの真つ只中の木椅子かな

羽多野和子

村田 郁夫

福田 優子

三ツ矢龍美

奥野 順子

梅枝あゆみ

伊藤 孝子

寺本美和子

小林 青波

手塚 泰子

中山 暁代

西田 誠

伊室美枝子

岡島 千秋

村田 豊星

森本 和子

関山美代子

近藤 昶子

豊田麻佐子

渡邊 健

米野てるみ

連弾の息合ふ姉妹チューリップ
七十と指で示して海女頭

岩田 光代
尾崎亥之生

西田 誠先生 選

特選 桜守植ゑし若木に酒注ぐ

服部登紀子

教科書の真つ新なまま春逝けり

三ツ矢龍美

入選 獅子に騎る文殊菩薩や百千鳥

島井 節

舟降りて母に妻にと還る海女

伊室美枝子

すぐ逃ぐる構への媪若布を拾ふ

西尾 敬一

今日は今日の道を歩めり蝨の道

石井 洋子

塗畦の乾く輪中に一揆の史

水谷 岩夫

つちふるや老の漁師の遠目ぐせ

豊田麻佐子

自肅して自肅して春逝かしめぬ

福田 容子

囀りの真つ只中の木椅子かな

米野てるみ

郁子咲くや岬に絶えたる鬪鶏師

坂口 緑志

種浸す真正面に神の岳

宮田 正和

尾崎亥之生先生 選

特選 桜守植ゑし若木に酒注ぐ

坂口 緑志

武者幟荒波つづく熊野灘

宮田 正和

花菜漬京の香りを持ち帰る

坂口 緑志

入選 伊賀山中野梅の瘤に人面相

坂口 緑志

ネクタイを外し加はる夜の花見

坂口 緑志

ひらめきに走る鉛筆大試験

椿本 格三

ちぎり絵の和紙の軽さや春の蝶

村田 郁夫

すぐ逃ぐる構への媪若布を拾ふ

西尾 敬一

鮑海女潮に生かされ潮に泣き

石井いさお

三月尽菓子舗は屋号残し閉づ

伊藤 久子

春はやち紙垂ちぎれ飛ぶ山の神

下村 哲朗

連弾の息合ふ姉妹チューリップ

岩田 光代

草餅をいつかのお礼にと貰ふ

山中 悦子

箱林のぶ子先生 選

三ツ矢龍美

教科書の真つ新なまま春逝けり

米野てるみ

囀りの真つ只中の木椅子かな

廣 波青

遊具より脚の飛び出す花の昼

稲垣いつを

少年は石蹴つてゐる雛祭

椿本 格三

ひらめきに走る鉛筆大試験

岩脇 五風

春の雲観音様はあの辺り

佐藤 茂

病む地球照らして赤き春満月

椿本 格三

ピアノふと止みし洋館花ミモザ

玉置 泰生

鳥影を放り上げたる大卵波

山本清稀人

春寒し指紋減るほど手を洗ひ

西田 誠

雉鳴くや火攻めまぢかな登り窯

上田佳久子

真ん中のふくらみに寝てげんげん田

宮田 正和

種浸す真正面に神の岳

宮田 正和

平田 冬か先生 選

特選 今日今日の道を道を歩めり蜷の道

石井 洋子

舟降りて母に妻にと還る海女

伊室美枝子

五線譜を舞ふかのやうに蝶来る

三田 洋子

磯嘆き終えて離せる命綱

上野山明子

入選 日の匂ひ潮のほひ麦は穂に

久保 文子

逃げ水の逃げゆく橋を涉りをり

樋口 一破

コロナ禍はどこ吹く風と田水張る

佐野 白沙

子の呉れし一本だけのカーネーション

館 忽み子

滴りの力溜め切り落ちにけり

石井いさお

土井 陽代先生 選

池田 綏静

一片の反りより散華白木蓮

金津やよい

特選 夫の字の覚え書きあり種袋

池田 綏静

ピアノふと止みし洋館花ミモザ

椿本 格三

黄華鬘の群る崖より眼張釣る

坂口 緑志

ウイルス禍今年の桜記憶せん

樋口 精一

入選 清明や植え替えらるる花時計

駒田 弘子

夫の字の覚え書きあり種袋

池田 綏静

山車蔵の開け放されて初つばめ

松尾 紀子

膝つけば土のぬくもり蓬摘む

渡邊 健

教科書の真つ新なまま春逝けり

三ツ矢龍美

早蕨の拳ゆるめる水の音

西田 尚子

鮑海女潮に生かされ潮に泣き

石井いさお

水口に来て押し合へる花筏

森田 久枝

春寒し指紋減るほど手を洗ひ

山本清稀人

呼び止むるやうに筒鳥声深し

武田 巨子

今日は今日の道を歩めり蜷の道

石井 洋子

稲垣いつを先生 選

渡辺 健

特選 海女小屋の時計正確煤けゐて

平田 冬か

雉鳴くや火攻めまぢかな登り窯

西田 誠

筍の砲弾いくさには行くな

石田ひでお

散るよりも残る桜の憂ひかな

武田 巨子

入選 田の中に駅あり駅に燕来て

橋本 石火

種浸す真正面に神の岳

宮田 正和

妻の手に緩む指輪や水盗む

山本清稀人

子の呉れし一本だけのカーネーション

館 忽み子

日の匂ひ潮のほひ麦は穂に

久保 文子

特選 夫の字の覚え書きあり種袋

池田 綏静

遠山の墨絵さながら花の雨

白井 洋胡

古時計打つ春昼の組紐屋

山中 悦子

ネクタイを外し加はる夜の花見

平田 冬か

入選 落人の里とや花の里に来て

岩脇 五風

春の雲観音様はあの辺り

岩脇 五風

斧研ぐや砥石に黄蝶来て止まる

稲垣いつを

山車蔵の開け放されて初つばめ

松尾 紀子

紫木蓮百花空へと掲げたり

服部登紀子

ピアノふと止みし洋館花ミモザ

椿本 格三

桜守植ゑし若木に酒注ぐ

服部登紀子

鮑海女潮に生かされ潮に泣き

石井いさお

トンネルを抜けて古里花菜風

村田なよみ

膝つけば土のぬくもり蓬摘む

渡邊 健

水音に沿ひて歩みぬ春の暮

宮田 正和

ヒヤシンス大きな窓の保育園

谷本たか子

三田

洋子先生 選

特選

春風に聞いてゐる児や「もういいかい」

岡島 千秋

休校の子の鍬づかひ風光る

吉田 詮子

入選

色とりどり形様々芽吹かな

佐野 白沙

遊具より脚の飛び出す花の昼

廣 波青

遠山の墨絵さながら花の雨

白井 洋胡

鯉幟目玉あちこち光らせて

津田 壽美

空掘げ溪をひろげて囀れり

岡島 千秋

春寒し指紋減るほど手を洗ひ

山本清稀人

農仕事日々に増えつつ四月来る

鈴木 秋翠

意のままに生きたき余生花辛夷

辻下久美子

子の呉れし一本だけのカーネーション

館 糸み子

横断のゼブラくつきり夏に入る

林 里美

呼び止むるやうに筒鳥声深し

武田 巨子

高点句賞

4点句

教科書の真つ新なまま春逝けり

三ツ矢龍美

膝つけば土のぬくもり蓬摘む

渡邊 健

雉鳴くや火攻めまぢかな登り窯

西田 誠

3点句

遊具より脚の飛び出す花の昼

廣 波青

ピアノふと止みし洋館花ミモザ

椿本 格三

桜守植ゑし若木に酒注ぐ

服部登紀子

鮑海女潮に生かされ潮に泣き

石井いさお

春寒し指紋減るほど手を洗ひ

山本清稀人

今日は今日の道を歩めり蜷の道

石井 洋子

夫の字の覚え書きあり種袋

池田 綏静

囀りの真つ只中の木椅子かな

米野てるみ

磯嘆き終へて離せる命綱

小林 青波

種浸す真正面に神の岳

宮田 正和

子の呉れし一本だけのカーネーション

館 糸み子